

平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

1. 学校概要

学校名 福井県勝山市立勝山北部中学校

種別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☒ 中学校 ☐ 高等学校 ☐ 中高一貫教育
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他（ ）

住所 〒911-0045

福井県勝山市荒土町伊波 2-1-2

E-mail : hokubutyu@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website : <http://www3.fukui-c.ed.jp/~k-hokubu/>

児童生徒数：男子 69 名 女子 59 名 合計 128 名

児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☐ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☒ そのほか（地域活性）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1. はじめに

昨年度からユネスコスクールの認定を受けた。本校のESDテーマは「勝山を美しく、元気に、有名に」。大人になっても自分達が住み続けたい勝山市を目指して、「北中まちづくりプロジェクト」としてESDカレンダーをもとに全校体制で取り組んでいる。本校のESDテーマは「勝山を美しく、元気に、有名に」である。大人になっても自分達が住み続けたい勝山市を目指して、「北中まちづくりプロジェクト」として様々な活動を総合的に推進している。

本校は、県のNIE実践校であった経歴があり、新聞を使った活動やその他のメディアを使った発信活動に対して職員、生徒の意識が高い。そこで、自分たちの活動を全校に、家庭に、地域に、行政に『発信』する活動を取り入れ、思考力・判断力を高め、つながりを大切にして自分の思いを発信し、地域社会に主体的に関わり、自分の力で未来を拓いていくことができる生徒を目指している。

2. 実践内容

北中まちづくりプロジェクト 2015 活動報告

	1 学年	2 学年	3 学年
4 月	・ NPO法人まちづくり勝山主催「まちづくり講演会」でこれまでの取り組みを生徒会が報告		
5 月	・ クリーンアップ九頭竜川に保護者と参加		
	・ 遠足で福井に行き、勝山と福井を比べる活動	・ 金沢遠足で金沢土産を購入し、勝山PRについて考える ・ 外国人に、英語で勝山の知名度を調べるとともに勝山のPRパンフレットを配り、勝山をPR	・ クリーンアップ九頭竜のゴミの分析
6 月	・ 福井国体を盛り上げるための「はびねすダンス」を体育大会で披露		
	・ 恐竜博物館を見学し、職員から説明を聞いて、勝山の魅力について考える	・ 勝山の魅力ある産業について、市商工振興課の方から勝山の企業についての話を聞く	・ 法恩寺山有料道路付近のオオキンケイギクの駆除活動を市環境政策課と共同実施 ・ 雪室の見学をし、雪だるま財団の方からの講話を聞き、勝山の魅力づくりについて考える
	・ ユニクロが実施している「届けよう、服のチカラ プロジェクト」に参加し、校下の小学校と連携し、環境教育・国際理解を深める（～9月末まで）		
7	・ 生徒会が市の環境政策課で、九頭竜川清掃のゴミの分析結果の報告、外来種駆除活動についての経過について報告・提言		
8 月	・ 郷土新聞作りでふるさとを見つめ直し、魅力を発信	・ コカナダモの分布調査・駆除活動	
	・ 生徒会を中心とした勝山PR動画の撮影		

	・勝山夏まつりで生徒が考案したエコバッグを配布 ・環境保全活動基金活動の実施		
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動の取り組みを高野誠鮮氏に手紙を書いて報告する。 ・学校祭で、ゆめおーれ勝山の方に来ていただいて繊維を使った体験活動を実施 ・学校祭で、福井県立大学経済学部南保教授を招いてまちづくりについての講演会を実施 ・学校祭で完成した勝山PR動画を全校生徒に披露 ・資源回収を実施 		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座を開き、認知症について理解し、接し方を学ぶ ・奥越青少年自然の家で自然に親しむ体験活動を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「勝山の魅力再発見」で勝山ジオパークを学芸員の方から説明を受け、市内の散策と「ゆめおーれ勝山」の見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行で石破大臣に活動報告 ・英語で書いた勝山市PRパンフレットを修学旅行時で外国人に英語で発信
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・2015 環境フォーラムで生徒会がこれまで取り組んできたことを発表・提言 ・ソーシャルフリーペーパー「組人」に掲載されるための、生徒会メンバーを中心としたインタビューや全校生徒での写真撮影 ・勝山PR動画の完成報告と勝山市公認動画にしてもらうための市長訪問 		
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・「元気なふるさとづくり県民のつどい」で生徒会がこれまでの活動の報告と提言 ★元気な明日をつくるまちづくり優秀賞受賞 ★第6回ESD大賞中学校賞受賞 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4弾かつやまPRグッズのデザインを生徒会が全校生徒に募集 ・代議員企画「みんなでENJOY」の各クラスの体験コーナーで、「エコ」を工夫して実施 		
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動を市の雪祭りで提言予定 ・生徒が考案したスポーツタオルを市の祭礼で配布 ・環境保全活動基金活動も実施 		

(1)「勝山を美しく！」

<実践1 クリーンアップ九頭竜に参加！>

白山水系のもと、勝山市および校区内を縦断する九頭竜川を見つめ直すため、市が開催する「クリーンアップ九頭竜」に親子・地域住民で参加してきた。大量のゴミが回収され、分別作業を行う中で大人が出したと思われるゴミが非常に多いことに気づいた。ゴミを減らすためにはこのような清掃活動をするだけではなく、もっと周囲の大人に意識付けを行い、発信していく必要があることを学んだ。今年度で7回目になるが、少しずつではあるが減少していることにも気づいた。

<実践2 オオキンケイギク、フランスギクの駆除活動>

身近に生息する外来種であるオオキンケイギクとフランスギクの駆除活動を実施し、勝山本来の美しさを取り戻そうと活動に取り組んだ。3年生は法恩寺山有料道路沿いに多く生息していることを確認し、市環境政策課の方と協力して駆除活動を実施した。継続して行うことで、外来種が減少していることにも気づいた。



＜実践3 コカナダモの駆除活動＞

温川には在来種のバイカモが生息する。2年生では、そのバイカモを守ろうとする地域の方と協力して、外来種であるコカナダモの駆除作業を夏休みの登校日を利用して活動に取り組んだ。大人が出したと思われるゴミにも気づきながら、よりよい環境づくりに励む必要があることを学ぶことができた。これで3年目になるが、この活動を継続することで少しずつコカナダモが減少していることが確認できた。



＜実践4 セイタカアワダチソウの駆除活動＞

在来種のススキの生息を脅かすセイタカアワダチソウの駆除活動も行う必要があることを考えた。そこで、2年生では校区の小学生に呼びかけて、当日は一緒に駆除活動に取り組んだ。活動後は、どうすると外来種を減らし、勝山本来の美しい自然を取り戻すことができるのか考えた。



生徒会執行部は市環境政策課の方にこれまでの環境保全活動を報告するとともに、今後の取り組みを提言した。さらに、これらの環境の取り組みをもっと多くの方に啓発するために、勝山市の祭礼時には、自分たちが行ってきた活動の紹介や勝山市の自然を守っていかようと呼びかけるチラシを配布した。



→生徒会が作成したチラシ

(2)「勝山を元気に！」

＜実践1 学校祭の体験活動で勝山の魅力発見！＞

勝山市は繊維のまちである。そこで、ふるさと勝山についてもっと知るために、ゆめおーれ勝山の方をゲストティーチャーに迎えて全校生徒を対象に体験活動を行った。45分ほどの体験活動であったが、どのグループも意欲的に取り組み、繊維を身近に感じる事ができた。2年生は後日学芸員の方と市内の史跡名所を見学して魅力を発見するとともに、繊維の歴史について学び、魅力を発信しようと意欲を持つことができた。

＜実践2 はびねすダンスで勝山を、福井を元気に！＞

3年後に福井県で開かれる国体に向けて、ふるさとを元気にするために「はび

ねすダンス」を体育大会や市あげての祭りや老人福祉施設で披露し、意欲的に参加している。

<実践3 雪室の見学から勝山の魅力発見！>

3年生では、雪を貯蔵した雪室の見学をし、雪だるま財団の方からの講話を聞き、雪を活用した勝山の魅力づくりについての可能性を考えることができた。



<実践5 “届けよう服のチカラ” プロジェクト>

【活動の流れ】

「“届けよう服のチカラプロジェクト”」とは、ユニクロが行っているプロジェクトであり、子どもたちが主体となって、着なくなった子ども服を回収し、難民の方々など世界中で服を本当に必要としている人々に届ける活動である。右図が活動の流れである。

この活動を通じて、次世代を担う子どもたちが、国際問題や環境問題に関心をもつだけでなく、服のチカラを知り、自分たちにもできる社会貢献があると気づくきっかけになればよいと考え、今年度本校も参加した。

地域に参加を呼びかけ、その効果が回収量という形で目に見えて表れることで、地域からの期待、地域への貢献、地域との連携といったことを生徒自身を感じる事ができ、今後も継続してプロジェクトに参加したいと考えている。

STEP1 ユニクロ社員による出張授業

(6月17日)

- ・ユニクロの社員が学校を訪問し、講師となって出張授業を実施。

STEP2 校内・地域への呼びかけ

(出張授業後～10月)

- ・代議委員会を中心に、ポスターや回収ボックスを作成。
- ・校区の小学校を訪問。地域にチラシを配布。

STEP3 回収・発送(～10月末まで)

- ・子ども服を回収。段ボール箱につめて発送。

STEP4 報告(1月下旬)

STEP1 ユニクロ社員による出張授業(6月17日)

ユニクロの社員を講師として学校に招き、出張授業を行った。ユニクロのことや服が持っているチカラのこと、難民の方々の様子などを詳しく説明して下さった。出張授業後の感想では、さっそくポスターの案を考えたり、キャッチコピーを考えたりする生徒がおり、意欲的に活動に取り組もうとする姿勢が見られた。



【出張授業の様子】



【H27.6.18 日刊県民福井に掲載】

今日、ユニクロの人の話を聞いて、ユニクロがしていることが分かりました。また、友達でデザインの良い服を最後までいにかねることから、このプロジェクトが始まったことも分かりました。


世界には5000万人以上もの難民の人がいて、食や住は、提供されているけれども、衣服は後手に回してしまっています。服には、寒さを防ぐ、けがを防ぐ、眠りを助けるなどの命を守ることに、おしえてくれる民族の服、ないの、人かららしく生きるというチカラ、があることを知りました。

また、僕たちも地中おちかくプロジェクトで、いろんな事を発信してきましたが、これから服のチカラを大人の人や、校区の小学校の子に発信していきたいです。

家にある、古くなった服や小さくなった服も、世界中の難民のトクに回せることになりました。僕も世界の難民を助けるプロジェクトに参加できることになるので、とてもうれしいです。

でもうけたくさんの服を届けてきたいです。

喜び、幸せ、満足



世界中に

世界中の難民の方に服と喜びと幸せと満足を！ユニクロは世界中の難民の方を応援します。ユニクロ服がチカラプロジェクト

ホスター案を考えました。ユニクロは喜び、幸せ、満足とこだわり、世界を良い方向に変えたいということが分かりました。だから、その喜び、幸せ、満足を入れました。真ん中には難民の方の小さい子3人ぐらいを入れました。

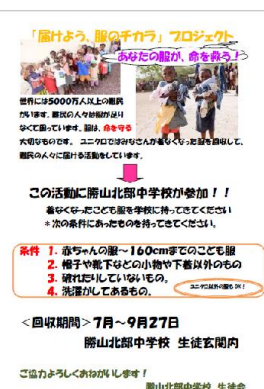
その3人は写真でもらった服を来て、みんな笑っています。「世界中に」という言葉は、難民の方はアジア、アフリカ、南アメリカ、北アメリカなどいろいろなところにいるということが分かりました。だから「世界中に」という言葉を入れました。私はこの活動により、本当に世界が良い方向に変わると良いなと思います。がんばって私もこうけんしたいです。

【授業後の生徒の感想】

STEP2 校内・地域への呼びかけ

（出張授業後～10月）

代議委員会を中心に、いつ、どこで、誰に、どうやって呼びかけるかを話し合い、アイデアを出し合った。まず始めに全校朝礼で呼びかけを行い、校内に回収ボックスと掲示コーナーを設置した。また、自分たちだけでなく、周りの方々にもこの活動を知ってもらうために、校区内の小学校と連携したり、資源回収に合わせてチラシを作成して地域の家庭に配布し、呼びかけたりした。



↑ 【校内の掲示コーナーと地域に配布したチラシ】

【校区の小学校へ依頼に行ったときの様子】 ↑

STEP3 回収・発送（～10月末）

子ども服の回収を地域に呼びかけた結果、とてもたくさんの服が集まり、生徒

たちは達成感を味わうことができた。また、出張授業の様子を新聞に大きく取り上げていただいたことによって、「新聞を見ました」と校区外の方からもたくさん子ども服を持ってきていただいた。全部で段ボール箱46箱分回収することができ、生徒たちは世界の人々の役に立つことにやりがいを感じる事ができた。



【回収した子ども服】



【全部で段ボール箱46箱分回収】

STEP4 報告（1月下旬）

全ての学校で活動が終了し、ユニクロから難民キャンプの様子をまとめたフォトレポートが送られてきた。それを基にして、校内に掲示コーナーを設置し、活動報告を行った。生徒たちは、「こんな風にして服が届けられるんだ」と興味を持って見ていた。今後は、チラシを作成し、地域の方々に活動の成果を報告する予定である。



難民キャンプは子どもたちの笑顔でいっぱいになりました。
"届けよう。服のチカラ"プロジェクトに参加していただき、ありがとうございました。
これからもユニクロは、服のチカラを信じて、世界中の服を本当に必要としている人々に届けていきます。



【難民キャンプの様子をまとめたフォトレポート】【活動の成果を校内に掲示】

（3）「勝山を有名に！」

＜実践1 勝山をPR！＞

これまで、生徒会中心にステッカー、クリアファイルを作成し、祭礼時などで販売してきた。また、地域の行事に参加するときに、我が校の取り組みを発信するために、『北中まちづくり法被』も制作してPRに役立ててきた。それらに続くものとして、エコバッグを作成した。8月の市の夏祭りで販売した。その際に、環境保全活動で取り組んできたことをチラシにまとめて配布した。売り上げたお金を環境保全活動に役立てるために、校区の小学校に分配した。また、2月に行われる勝山左義長まつり（北陸三大奇祭の一つ）では、オリジナル勝山PRタオルも販売し、PRに努めた。また、3年生は修学旅行で勝山をPRするため、英語で作成した勝山PRパンフレットを東京で配布した。



<実践2 勝山PR動画づくり>

(3) 勝山PR動画づくり

勝山をもっと多くの方に知ってもらおうと、勝山市の様々なスポットで「はぴねすダンス」を踊り、それを1本の動画として制作し、動画サイトに投稿しようと休みを活用して撮影に取り組んだ。

終業式の日、執行部が全校生徒の前でこの企画を提案し撮影の協力を依頼した。移動手段が限られるため、自分たちの小学校区で有名な名所をバックにしてダンスをする日を設け、撮影に望んだ。

おもに3年生を中心にダンスを踊り、撮影に取り組んだ。完成した動画は学校祭で生徒や保護者、地域の方に披露した。また、市長に動画の完成の報告と、市の公認PR動画にしてもらおうと、市長訪問を行った。動画を視聴していただき、市長から快く市の公認PR動画として認めていただくことができた。

編集もすべて生徒が行い、学校祭の最後に全校生徒に披露した。また、YouTubeにもアップしたところ、勝山市に公認して市のHPにリンクを貼ってもらうといいのでは、という意見が出た。そこで、市長に動画制作について報告し、披露する機会をいただいた。「とてもよかった」という評価もいただき、市が公認する動画となった。

これらの活動を通して、勝山市のいいところを再発見したとともに、撮影地で地域の方との撮影協力の依頼や、ふれあいを通じて、ますます勝山市のことが好きになることができた。今後は、他のスポットも入れて冬バージョンの制作を考えている。

玄関に掲示して、撮影が終了するたびに写真を貼ってき、制作を盛り上げようと努めた。



3. 成果と課題

全校生徒にアンケートを行った。項目は、「勝山が好きか」「大人になっても勝山に住みたいか」そして、「将来勝山の役に立ちたいか」の3つである。すると、8割の生徒が、「自然が多い」「人がいい」「空気がきれい」「他に誇れる場所がたくさんある」理由で「好き」と答え、半分の生徒が「大人になっても勝山に住み

たい」と答えている。ただ、「田舎だ」という理由で「嫌い」「勝山に住みたくない」と答えている生徒もいる。これまでの活動を通して、勝山のよさを見つけて魅力と感じている生徒が多いことがわかる反面、「何もない」という考えを持っている生徒もいることがよくわかる。また、半分近くは将来の夢がまだ定まっていないため、どうなるかわからない、と答えている。さらに、半分の生徒が「将来、勝山の役に立ちたい」と考えている。「大人になっても環境活動をしていきたい」「勝山の人を元気にできる仕事に就きたい」「地元を盛り上げたい」という考えが多く見られた。

「勝山には何もない」「勝山の自然は豊かだ」と考えていた生徒達に、環境保全やまちの活性化を考え、自分達にできることを模索することが今後の生き方を考える上で大きな成果があった。また、清掃や駆除という小さな活動の継続が大きな成果を生むことも実感できた。さらに、セイタカアワダチソウ駆除活動を毎年行うことによって、そこに生息するススキが戻ってきている現実も確認することができた。今後もこういった活動を継続して行う必要がある。

これらの活動は報道でも大きく取り上げられ、石破地方創生担当大臣の元にまで届く「発信」の充実に繋がった。先日の修学旅行では、3年生が石破地方創生担当大臣と面会する機会も得ることができた。生徒たちはこれまでの活動を報告し、大臣から「このような取り組みが日本をよりよくしていく」という激励の言葉をいただくことができた。このような発信を通じた取り組みが地域社会を変えていく波及効果を生み出し、地域からの理解や協力も高まり中学生からの地方創生となった。

さらに、こういった取り組みを通して、生徒たちのプレゼン力と自分の思いを相手の心に届けるための発信のスキルは大いに向上した。勝山がもっと好きになった生徒達に、更に広い視野で深い所まで探究できる目とスキルを身に付けさせたい。そして、将来も勝山に住み続け、ふるさとを盛り上げていける生徒を今後も育てていきたい。それが様々な課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくと期待している。

石破地方創生担当大臣(右)に、勝山北部中が取り組むまちづくりのアイデアを説明する生徒たち＝1日、国会前



石破大臣に勝山PR

北部中生 国会訪れ活動報告

修学旅行で東京に上った勝山北部中の3年生45人が1日、国会内で石破地方創生担当大臣と面会し、同校が取り組むまちづくりのアイデアを披露した。環境保全や美化活動を通して、古里の魅力アップを図る活動事例を報告し「勝山が元気で有名なまちになるよう、これからも貢献していきたい」と決意を述べた。同校は5年前から「北中まちづくりプロジェクト」と銘打ち、外来植物駆除や九頭竜川清掃といった活動を続けてきた。生徒会長の佐々木一貴君ら生徒会メンバーの4人がプロジェクトについて説明し「勝山はごも美しいまちです。僕たちが案内するので、ぜひ見に来てほしい」と呼び掛けた。

石破担当大臣は熱心に耳を傾け「これまでの日本は道路を造ったり、工場を誘致することで地方を元気にしてきた。これからは農業や漁業、観光など、地域の魅力を発信して人を集めることが大切だ」と地方創生の目的を説明。生徒たちの活動に対し「みなさん

H27. 10. 2. 福井新聞

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- ☒ 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- ☒ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他()